



ぬくもり

[平成22年6月15日発行]

「心豊かな活力とうるおいのある住みよいまち・可児」を!

ご長寿は、人の起源力の証であり、大いなる対応力となる!!



「羽生ヶ丘 絆の会」の皆さま

あすへの
きずき合い
経・験・力・は・宝



「花を愛でることは、生命を大切にすること!!」



《平成21年度人権標語から》

(学年・当時)

「ありがとう」小さな言葉で 大きなぬくもり
(西可児中3年 山本有紗)

消えないよ 相手につけた 深いきず
(今渡北小6年 田中秀治)

「だいじょうぶ？」やさしくその手を さし出そう
(今渡南小6年 亀谷明音)

●「人権教育及び人権啓発推進法」
(2000年12月6日) 施行10周年

今年の人権・ホットメモリー

●児童虐待防止法 施行10周年
(2000年11月20日)

●ストーカー行為規制法 施行10周年
(2000年11月24日)

目次

- 平成22年度の活動と21年度報告のあらまし ②
- 特集コーナー 「人権教育及び人権啓発推進法」施行10周年記念事業案内 ③
(本年度・事業案内) 平成22年度「主事業」案内
- コーナー ④
 - 壁の箴言(あなたは知っていますか?)—飲水思源の碑 忘れず通う心を持つ人とは
 - 投稿だより(心田への薫風)—「きずな」から生きる力を。—可児市文化創造センター館長(兼劇場総監督) 衛 紀生
 - 他

発行

可児市人権啓発センター(可児市総合会館分室内)
〒509-0203 可児市下恵土5166-1 TEL/FAX 0574(63)7990

ホームページ

可児ぬくもりネット

検索

アドレス <http://www.kani-nukumorinet.jp/>

平成22年度の活動と21年度報告のあらまし

目標 啓発人口 5,500名／年

(本センターの活動に関わり合った人数)

重点 大人のあなたが主人公!
(地域の人権教育)


～ぬくもりの心は、大人のあなたから～

理念 人は差異・多様ゆえに認め、学び合う人間主義で!



お知らせ

可児駅に、本センター掲示板設置!



「地域の人権教育」の一環として駅裏への地下道入り口に設置しました。22年度の活動内容と行事の募集等を掲示します。

新年度スタートにあたり

会長 杉山 桂

市民の皆様、ご健勝のことと感いたします。すでに新年度も、2ヶ月を経過しております。

今、世間では、人心を乱すことが多く心配しております。経済不況が長く続き雇用の不安定な時、ゆとりが無くなり人心の不安定から、自己防衛に走りがちになります。

このことで、人とのかわりが薄くなり、人権侵害、又蹂躪(じゅうりょう)等が多くなることが気に掛かります。

「人権は、人間が人間らしく幸せに生きていく権利」といわれます。何かあっても、それにめげずに忍耐強く生きることを目指します。

何かあったら、ご家族でよく話し合い、その上で多くの人に相談することです。

皆様のこつとしたことのお役に立てます。よつ懸命に努めてまいります。



「人権教育及び人権啓発推進法」施行 10周年記念事業案内

(本法の目的: 国県市は施策をつくり実施・国民は人権尊重の精神を学び、こうした社会の実現に寄与するよう努める。)

近年の情報化時代、本市でも、インターネットによる個人の身体・出生地(同和等)他、プライベートな誹謗・中傷等の新しい人権蹂躪(じゅうりん)も発生しています。

本センターでは、市民がこうした被害を受けない! 起こさない! ようにするため上記記念事業として次のことを実施します。

公民館巡回「ぬくもり展」の開催

あらし

共同部署: 生涯学習課・総合政策課
まちづくり推進課・福祉課・各公民館

①目的: 多くの人が集まる公民館(連絡所)で人権の理解と、人心の醸成をさらに図る。

②概要

- 開始日: 平成22年6月1日～
- 発足式: 平成22年5月24日(役所ロビー)(済)(デビュー展)
- 展示場所: 市内公民館(全14館)
- 展示コース: 2コース(1コース・7館)
- 展示品: 人権に関することの解説
ぬくもりの文章・写真・詩歌
活動あらし 等
- 展示期間: 1ヶ月間展示後巡回。

巡回順序

月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1コース	下恵土	土田	今渡	川合	兼山	中恵土	広見東
2コース	帷子	春里	姫治	平牧	広見	桜ヶ丘	久々利

但し展示期間の詳細は、各公民館(連絡所)へ

「市民人権意識調査」の実施

あらし

共同部署: (市)まちづくり推進課

①目的: 約4年に一度、人権意識の推移と新たな人権につき調査し、事業への活用をする。

②概要

- 調査期間: 平成22年8月10日～25日
- 調査対象数: 1000名(ランダム抽出)
- 主な調査内容: [下線:(新)予定]
 - ・男女差別
 - ・障がい者
 - ・思いやりの心
 - ・D.V
 - ・いじめ
 - ・同和問題
 - ・人づくり
 - ・ハラスメント
 - ・高齢者
 - ・外国人
 - ・インターネット
- 調査方法: 調査内容、調査票(ハガキ)郵送後、記入し返送願う。
- 調査報告: 機関紙「ぬくもり」10月号(3面)予定
冊子発行 12月初 予定
- 冊子要望: 本センターまで、お電話(又FAX)下さい、お送りします。
(申込: 12月3日～10日)(原則: 1件1葉)

調査依頼された皆様、宜しくご協力お願いします!

「(市)人権施策推進指針」の作成

作成部署: まちづくり推進課

〈基本理念〉 (市)の人権擁護都市宣言(相互尊重・心豊かに幸せな社会実現、人権感覚の高揚、生きがいと思いやりのある都市づくり)を実現するため自立した市民(個性・能力)で自己実現と、社会的責任を果す。



〈指 針〉 **めざします!**

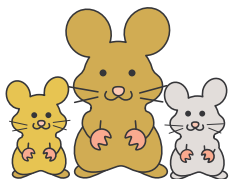
- ①平等な地域社会(誰もが等しく参画可能な社会づくり)
- ②自己実現の地域社会(すべての市民が自信をもって差別、偏見なき挑戦ができる社会づくり)
- ③共生する地域社会(多様な文化価値観・個性尊重で支え合う社会づくり)
- ④人権問題に取り組む地域社会(市民、企業、自治体等が取り組みやすい社会づくり)

詳細は、まちづくり推進課
又 本センターまで

平成22年度「主事業」案内

対象者企画 **ぬくもりフォーラム** **無料**

応募対象者: 「家庭教育学級」の皆さま



「朗読と映画のひととき」

松浦寿輝著「川の光」
NHKアニメ放映作品

(小さなネズミー家の物語)

～生きること、死ぬこと、命の大切さを感じてみよう～

- 日時: 平成22年8月21日(土) 13:30～
- 場所: 可見市文化創造センター映像シアター(100名)
- 応募: 各「家庭教育学級」毎まとめの上(市)生涯学習課へ

公募企画 **ぬくもり講演会予告** **無料**

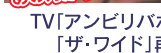
講師決定!

困難を乗り越え 強く生きる!

(車イス生活) 最も大切なこと
はま みや さとし

●講師: **濱宮 郷詞**氏

- 日時: 平成22年12月4日(土) 13時30分～
- 場所: 可見市文化創造センター(小劇場)



※募集は広報かに9月1日号
ぬくもり(10月号)掲載

募集期間: 9月1日～10月31日
往復ハガキ 300名(抽選)

〈お母さんありがとう!〉

作:多々ス/画:miho



募集 ぬくもり人権啓発
「標語と300字小説」

- テーマ : 人としてのぬくもりを感じられる文面とことば (小説は会話をいれること)
- 応募資格 : 市内在住の人 (小中学生) (一般)
- 応募方法 : はがきの表に住所・氏名・電話、裏に作品(小説1点、標語2点まで)
- 応募期間 : 7月12日~9月20日 (消印有効)
- 入賞作品数: 標語約30点・小説約7点
- 入賞発表 : 11月初旬本人通知 (小中学生は、学校から)
- 作品展示 : 人権週間(12月4日~10日) (入賞) 市役所ロビー等で展示。また機関紙「ぬくもり」等に掲載
- *入賞者には、表彰状と図書券を贈呈 (小中学生は学校から)
- あて先 : 本センター宛 (本表紙ご参照)

健言の箴言
「あなた、知っていますか?」

「飲水思源」の碑

「忘れず通う心」を持つ人とは
「成り事には、何事にも
汗涙が流れている」

台湾の新竹市は、「台湾のシリコンバレー」と呼ばれ、IT企業が集中している。
「市の木」は、可児市と同じ「クロマツ」である。その新竹に「国立交通大学」がある。この大学の北門には、4文字の碑が立っている。

「飲水思源」の碑である。
中国の北周の詩人「憺信」(いした)の「徵調曲」に三つ詩からの故事である。

「その実を落とす者は、その樹を思い、その流水を飲む者は、その源を思う」
すなわち「水を飲む時には、その井戸を掘った人への感謝を忘れない」との戒めである。
常に「源」を思い「原点」に立ち返る。そしてそれを創った恩ある人」に心を馳せ、報いようと、さらに努力し、それ以上にものをなす。この最も深く強い心が流れ通う人こそが、偉大な人である。

(編者)

心田への薫風

投稿だより

「きずな」から生きる力を。

可児市文化創造センター館長 衛 紀生
(兼劇場総監督)

古代ローマ帝国のフレデリック二世は、国中から身寄りのない新生児を集めて、彼らから「神の言葉」を聞くことを考えたそうです。そのため世話係の侍女たちに、食欲や睡眠欲や喉の渇きをいやす生理的欲求を十分に満足させることを命じました。その一方で、新生児に触れることや、あやすことや、言葉をかけることを厳しく禁じました。つまり、人間的な交流を禁じたのです。そうすれば、新生児たちが最初に発するのは「神の言葉」になる、ということがその時代には信じられていたのです。

ところが、すべての新生児たちは間もなく死に絶えてしまったそうです。「脳科学」に関する書物でたびたび取り上げられるエピソードです。この残酷なエピソードが物語るのは、人間は他者に関わり合い、交流することで生きている「社会的な動物」であるという事実です。その他者との交流をつかさどるのが、脳の大脳皮質の前頭連合野という部位であり、近年ではそこは「社会脳」と呼ばれるようになっていきます。そこには、他者とながりたいという

編集後記
(啓発のひかり)

目に青葉の候。若木が大きく伸びています。気になることが、「アイヌの人のこと」である。

昨年、閣議決定された本年からの「アイヌの人権措置」は、政変でどうなった? 人権という不変なる国の意識が、変わってしまったのかと寂しさを感じる。

さて、本センターでは、推進員が改選されました。

10年来、市民の人権にご尽力いただいた内野登代子さん、渡辺町子さん、天野弘子さん、高橋康平さんに心から感謝します。又新たに市野弘光さん、木村明美さん、山口勝之さん、平田博基さん、高木博光さんが就任されました。皆、更に「ぬくもりのまち」にしたいと決意しております。

(編者) 川手靖猛